

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	島根県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	那賀郡三隅町立三隅小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	1	2	2	2	2	13	21
児童数	40	47	30	43	50	44	4	258	

研究の概要

1. 研究主題

たしかな思いや考えをもち、自ら進んで人・もの・ことに働きかけることができる子どもの育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・全学年・算数  
児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。
- ・全学年・国語  
全ての学習活動に関わる基礎的な力をつけるために必要な教科であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 児童一人一人をよく理解し、わかる喜び、できた喜び、できた充実感を児童の心に育もう。(第1年次) 研究の見通し 児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を一層充実させ、「確かな学力」の向上を実現させれば、わかる喜び、できた喜び、できた充実感を児童の心に育み、自ら進んで「人・もの・こと」に関わる児童を育成することができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 <b>ア 発展的な学習や補足的な学習など、個に応じた指導のための学習教材の開発について</b> 「発展的な学習」 学習指導要領の内容を十分理解した児童には、教材や指導方法を工夫するなどして、積極的に発展的な学習に取り組みさせる。 「補足的な学習」 つまづきに対し、適切な教材・教具を開発・活用して対応する。 【具体策】 すべての学年において 児童の実態を考慮したプリント・ワークシート類の作成 繰り返し指導による「つまづき」を感じる児童への対応 課題にじっくり取り組み、わかる喜びが感じられるきめ細かな学習計画の立案と実行 中・高学年レベルで パソコンを利用した自学自習システムの活用</p> <p><b>イ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善について</b> 少人数授業などきめ細かな指導との関連を図る。 現行の少人数授業などきめ細かな指導を、さらに児童の実態に即して展開する。その際、理解や習熟の程度に応じた指導・個別指導や繰り返し指導を徹底する。 学びの機会を充実し、学ぶ習慣を身につけさせる。 通常学級に在籍しながらも、学年で求められる学力の定着がきわめて</p>
--------	--

困難な児童に対する“特別支援”を実施する。  
 朝読書などの始業前学習を推奨・支援する。  
 放課後の時間等を活用し、授業で理解できなかった部分の復習・補充的な学習や、児童が主体的に調べる学習を支援する。  
 総合的な学習の時間の“学年を貫くテーマ”として設定した「教科等の発展」を充実させる。  
 地域の人材を中心とした学校外のような様々な分野の専門家との連携を図る。  
 現行の地域講師・ゲストティーチャーによる指導・支援の体制を維持・発展させる。

ウ 児童の学力の評価を生かした指導の改善について  
 各教科の全体計画・年間指導計画等を必要に応じて見直す。特に、校内研究との関連を図り、音声言語に関する各学年ごとの年間計画・系統表・評価規準表を2年計画で作成する。

[実践研究内容等]

実践研究計画立案  
 (研究主題、実践研究内容・方法、評価方法、実践研究計画、研究成果の普及・推進策、実践研究の組織等)  
 実践研究体制の整備  
 実践研究内容、方法の年間計画の作成(実施教科、学年、実施形態等)  
 実践研究内容の効果的な実施のための教育課程の創意工夫  
 児童生徒の実態調査等の実施(児童、保護者、職員)  
 実践研究推進(実践研究内容、方法の試行)  
 先進校の視察、他のフロンティアスクールの授業公開への参加  
 実践研究(授業研究等)を教育事務所管内の学校を中心として公開し、成果の普及・推進を図る。  
 フロンティアスクール間のネットワークの構築、及び実践の相互参観  
 実践研究の評価方法の検討、及びその見直しとより適切な評価の工夫  
 学力向上フロンティア事業推進のための地域組織の整備

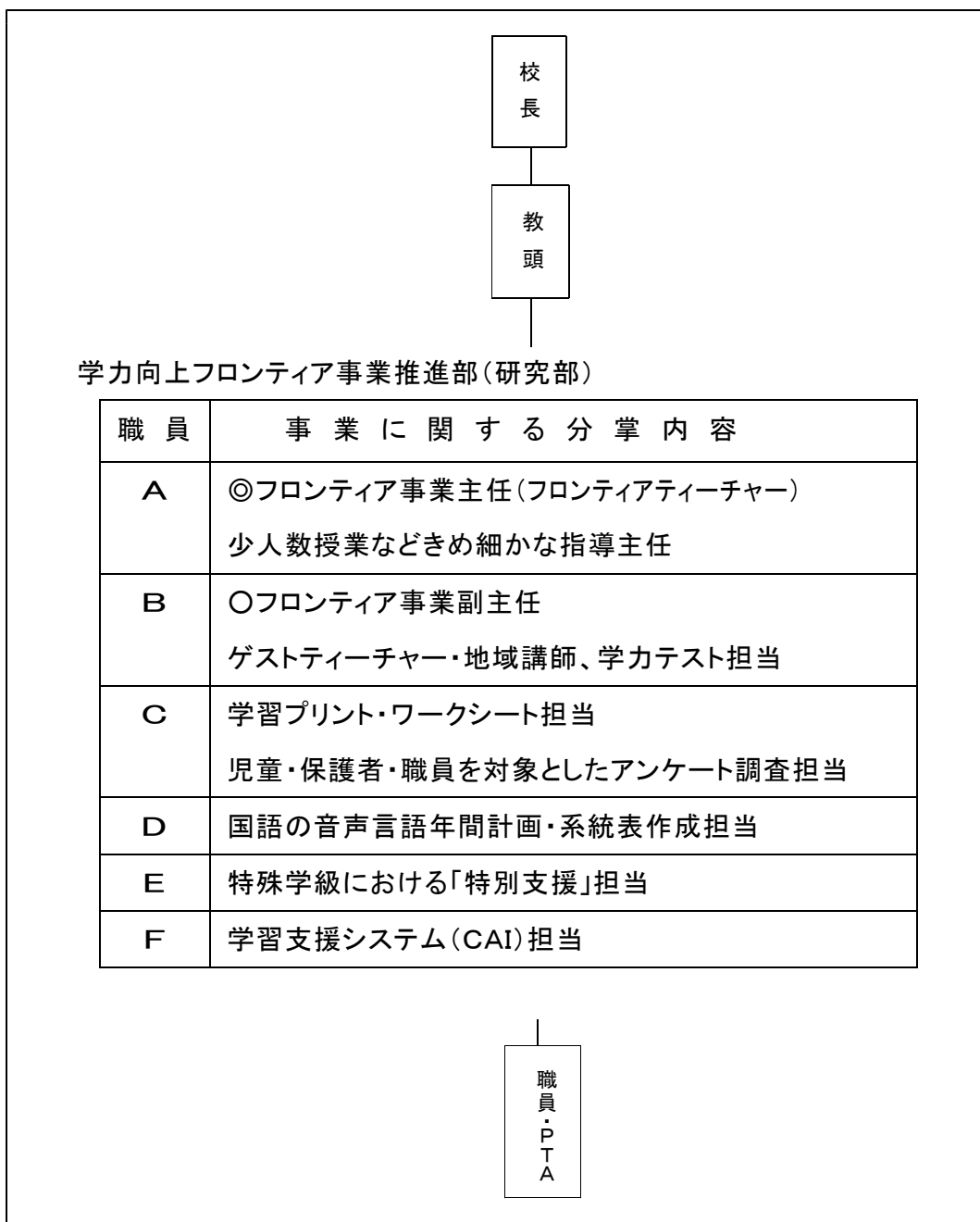
平成16年度

テーマ  
 児童一人一人をよく理解し、わかる喜び、できた喜び、できた充実感を児童の心に育もう。(第2年次)  
 研究の見直し  
 児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を一層充実させ、「確かな学力」の向上を実現させれば、わかる喜び、できた喜び、できた充実感を児童の心に育み、自ら進んで「人・もの・こと」に関わる児童を育成することができるであろう。  
 研究の内容・方法  
 1年次の反省を基に、その内容・方法を継続し、検討・修正を加えながら充実させる。

[実践研究内容等]

1年次の研究成果や課題を踏まえた実践の修正及び実践研究内容、方法等の焦点化や拡充  
 2年次の実践研究計画立案  
 実践研究体制修正  
 学力向上フロンティア事業推進のための地域組織の見直し  
 実践研究内容、方法の年間計画の見直し(実施教科、学年、実施形態等)  
 重点教科等以外の年間指導計画の見直し(重点教科の実践研究の成果を生かして)  
 「確かな学力」の向上を中心とした学校全体計画の作成(各教科等の関連の明確化)  
 実践研究内容の効果的な実施のための教育課程の見直しと創意工夫  
 「確かな学力」向上のための学習環境の整備  
 児童の実態調査の実施(児童、保護者、職員) 1年次との比較検討  
 実践研究推進(実践研究内容、方法等の焦点化や拡充)  
 実践研究(授業研究等)を県内の学校を中心として公開し、成果の普及・推進を図る。  
 フロンティアスクール間の実践の相互参観  
 実践研究の評価方法の見直しとより適切な評価の工夫  
 「確かな学力」向上のための特色ある教育の確立

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

**ア 発展的な学習や補充的な学習など、個に応じた指導のための学習教材の開発について**

児童の実態を考慮したプリント・ワークシート類の作成を積極的に行い、各学年で各教科ごとファイルにまとめストックしていくことにより、積極的に教材や指導方法を工夫することができた。

学年に応じた繰り返し指導や反復練習により「つまづき」を感じる児童への対応をその都度行うことができた。

中・高学年を中心にパソコンを利用した自学自習システムの活用をすることができた。

**イ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善について**

現行の少人数授業などきめ細かな指導との関連を図りながら、児童の実態に即して、理解や習熟の程度に応じた指導・個別指導や繰り返し指導をすることができた。

通常学級に在籍しながらも、学年で求められる学力の定着がきわめて困難な児童に対する“特別支援”を実施することができた。

朝読書などの始業前学習を推奨・支援することで、落ち着いて学習する環境を作り、学ぶ習慣を身につけさせることができた。

総合的な学習の時間の“学年を貫くテーマ”として設定した「教科等の発展」を充実させることにより、児童の学習に対する充実感を持たせることができた。

地域講師・ゲストティーチャーによる指導・支援の体制を維持・発展させることにより、積極的に「人・もの・こと」に関わろうとする児童を育てることができた。

#### ウ 児童の学力の評価を生かした指導の改善について

各教科の全体計画・年間指導計画等を必要に応じて見直すことにより、指導の改善を図ることができた。

音声言語に関する各学年ごとの年間計画・系統表・評価規準表の原案を作成することができ、今後の指導に活かしつつある。

定期的に全校一斉に「書取会」「計算会」を実施することで児童の学習に対する意欲付け・意識付けを図ることができた。

全校一斉に学力テストを行い、児童の実態を把握することができた。また、その結果を基に学力向上の為に考えられる「手だて」を講ずることができた。

## 2. 今後の課題

少人数授業などきめ細かな指導との関連を図りながら、その指導方法や指導体制をさらに充実させる必要がある。

音声言語に関する年間計画等を作成し、各教科等の指導に活かしていく。

研究の取組について、保護者・地域に知らせるとともに理解と協力を得るようにする。

「書取会」「計算会」の内容・あり方を検討し、全校体制で取り組んでいく。全教職員の共通理解のもとに全校体制で研究を進めていく。

### 学力等把握のための学校としての取組

1学期に、保護者・児童・職員を対象にした「学力」についてのアンケート調査を実施し、研究の方向性を決定する資料の一つとした。

1学期に学力テストを実施し、児童の学力に関する実態把握を行ない、次の指導・支援に活かすための一助とした。また、3学期にも全学年で学力テストを実施し、学力向上のための指導・支援のあり方を反省・考察するとともに次年度の取組の方向性を探るための一助とする。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

地域との連携の推進、情報発信について

学校だより「宇宙の子」において、本事業に関する本校の取組を紹介した。

また、児童の家庭に対しては、学年・学級だよりで同様の紹介を徐々に行った。さらに、保護者に学力に関するアンケート調査を実施するなどして、地域・家庭・学校が一体となった取組を行うように努めた。

他校との連携の推進、情報発信について

2学期に町内、郡内の各校に対し、本事業に関連した授業を公開し、参加を呼びかけ、研究の推進を図るとともに情報発信を行った。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上

【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 一部教科担任制  その他

【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無